



みんなのでできる 地球温暖化防止活動

— コモンズの悲劇から、教訓を得る!! —

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

(特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク)

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

■ コモンズの悲劇という寓話

コモンズとは、誰かの所有物でなく、公共の場所にある、山や森、川や湖、海や空（大気）のことです。入会地など共有地もコモンズです。

こんな寓話があります。ある村の共有地の牧草地で、村人はみんな牛を飼っていました。ある時、一人の村人が牛の頭数を増やして財を成そうとしました。他の村人も負けてなるかと増やし、牧草は食べつくされて全ての牛が餓死してしまいました。（『2050年の地球を予測する』伊勢武史著、ちくまプリマー新書）

■ 教訓

このコモンズの悲劇の教訓は、何でしょうか。「愚かな村人だ。私たち人間は賢いので、前後の見境もなく牛を増やしたりしないよ」と言い切れますか。パーム油生産のため熱帯林を乱開発したり、食欲を満たすために鰻や鮪を乱獲することは、コモンズの悲劇と共

通するものがありそうです。

■ 祖父から孫への伝言手紙

淡路島に暮らす小学生のお孫さんへ、地球温暖化のことについて伝言手紙を書いている神林誠さん（福島市、うつくしま地球温暖化防止活動推進員）にお話をお聞きしました。

「巨大なモアイ像で有名なイースター島のことを書く予定です。島には現在、木はほとんど見かけませんが、昔は島全体を覆うほど豊かな森がありました。しかし、煮炊きや家や船を作るために伐採し使い続けました。豊かな森は消滅し、人々の生活を支えることができなくなり、島の文明は衰退してしまいました。」

■ みんなのできる地球温暖化防止活動

「孫が住んでいる瀬戸内地方は雨が少なく、川の水に頼れません。地域の人が協力してたくさんのため池を作ったり、話し合って上流から下流へ灌漑水の整備をしました。もちろん、水争いもありましたが、みんなの知恵で限りある水資源を上手に使いました。」人は、コモンズの悲劇のように愚かな面も多いですが、国際的な話し合いでコモンズ（地球）利用の制度やルールを作り、地球温暖化という危機を乗り越えることができそうだというメッセージをいただきました。

（連絡先） <http://fukushima-ondankaboushi.org/>